

今月の読み物

樹木漫画作者 平田美紗子さんのワークショップに参加してきました！

月報委員会 日向 進

組合月報に **今月の読み物** として毎号掲載の「樹木漫画」を描いている林野庁北海道森林管理局の平田美紗子さんが、12月に東京に来られワークショップを開催するとの事。これは是非とも取材に行かねばと、最終的に月報編集チームである深谷委員長、岩本委員、日向そして事務局の熊倉課長と4名で参加をして参りました。霞が関にある農林水産省北別館1Fの『消費者の部屋』にて貴重な体験をさせていただきましたので、少しページをいただき、その様子を皆様にご報告させていただきます。とても楽しかったです！



樹木漫画などで森林・林業応援活動を展開する平田美紗子さんと森のリーフアーティストのうけさん



一番乗りの岩本さん真っ先にお約束の記念撮影



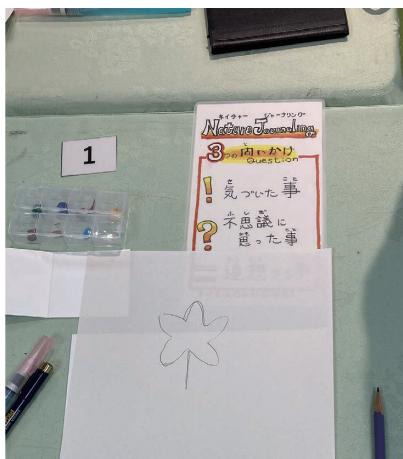
さあこれからワークショップのスタートです

12月11日(木)14時、ネイチャージャーナルワークショップ(翌日開催)のリハーサルに、取材を目的に特別参加するため、現地集合。農林水産省北別館1階入ってすぐの『消費者の部屋』では、今回、林野庁の取組みを紹介する様々な作品がところ狭しと展示されており、スタッフの皆様が温かくお出迎え。平田美紗子さんの作品と森のリーフアーティストのうけさん(北海道森林管理局網走西部森林管理署長佐野由輝氏)の作品を通して森林・林業に対する熱い思いが伝わって参りました。

まずはリン子さんのパネルとお約束の記念撮影をそれぞれ済ませ、平田さんほか皆様と名刺交換をしてはじめましてのご挨拶。とても和やかな雰囲気の中、定刻になると、並んだテーブル席に座り、平田先生の凛とした声でワークショップがスタート。

「まずみなさん目をつぶってください」「イチョウの葉をイメージしてください」「はいそれではみなさんのイメージで自由に書いてみてください」・・・

さあ皆さんはどういうイメージが思い浮かびましたか? 思い込みというのは本当に怖いものです。私は迷うことなく思わず・・・出来上がった絵に自分でもビックリしました。平田先生からも、ナイスな生徒がここにいたぞと、笑顔でお褒めいただきました。



筆者のイメージスケッチ



真剣に絵を書く様子の編集委員(左から日向・深谷・岩本)

続いて自分で好きな葉を選んで、観察した様子を絵にしていきます。まず平田先生のお手本を見せてもらい、感じたことをメモしたり、声に出したり、色や肌触り、香りなどそれなりに表現していきます。

それぞれ選んだ葉を観察しながら、自由に描いていきますが、やはり一人ひとりの個性や感性が違います。私は平田先生のアドバイスを参考に、気付きをメモしながら、感じたことを声に出し、無心で描いていました。一つ一つ違う細やかな葉っぱの様子を観察しながら、ふと自分は普段、何も周りを見ていないかったな・・・とか、ひとり猛省しつつ集中をしていました。私は特に、絵の具の色を混ぜ合わせ、葉の濃淡をつけて表現することに力を入れました。時折まわりの皆さんから「上手ですね!」「素晴らしい!」と言われると嬉しくなり、筆が勝手に動きます。

あっという間に時間が過ぎ終了。それぞれ自分の絵を発表して、それぞれの気付きに感嘆しながら、平田先生より一人ひとりの作品をたくさん褒めていただきました。



代表で平田先生お手本用の葉を選ぶ深谷委員長



先生のお手本を真剣に学ぶ様子

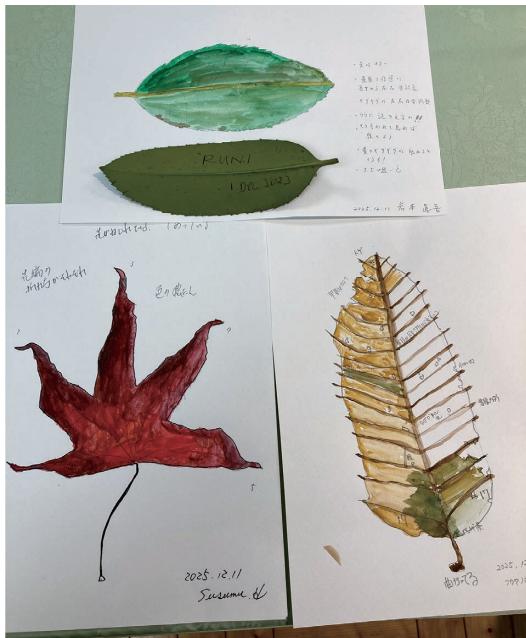


私たちは褒められると伸びるタイプです

岩本さんが選んだ葉は、濃い緑の紙のような葉で、しかも裏に文字が書かれていたレアなもの。「葉脈が上流から支流のような・・・」という表現に、平田先生より「素敵な表現ですね！」と、さすが岩本さんの感性は素晴らしい。

深谷委員長は、葉脈が黒いうす茶色の葉、コントラストが美しく、葉脈の先にトゲがある様子を見事に描いて、平田先生からも「素晴らしい！」と絶賛でした。

参加者の皆様の絵も、それぞれ特徴をとらえて、たくさんの気付きがあり、たくさん学びがありました。そして私の絵も、最初の絵から比べると、見事な出来栄えに、「色の濃淡が良いですね！」とお褒めの言葉をいただきました！嬉しい。



作品 (上) 岩本、(左) 日向、(右) 深谷



特別に見せてもらったスケッチブックは3冊にもなる

平田先生からは、「たった1枚の葉を想像して描くのにこれだけ違いがある。自分の中での思い込みを捨てて、真っ向から向き合う中でどれだけ情報を引き出せるかを体験してもらいたかった」「ネイチャージャーナル（自然観察記録）とはいいますが、日常生活の中で思い込みがある中で、一歩立ち止まって見たときに、いろいろな世界が見えてくる」「生活の中でも物の見方の解像度を上げてくれる」との事。一歩立ち止まることの大切さを学びました。

◆ワークショップ終了後、平田美紗子さんより少し雑談を交えてお話を伺いました。

行きたいところ

日本全国の森を見たい。特に、四国、九州や和歌山、岐阜、奈良、信州等などの林業地を訪ね歩いてスケッチ取材してみたい。あと外国の森も見に行きたい。

困ったこと

描くことがライフワークですが、二人の子供もいて、家事に仕事に忙しく、とにかく時間が足りない。それでもなんとか時間を作って、毎朝散歩の際に書くスケッチブックはびっしり3冊になる（特別に見せてもらいました）。

ある日、娘に「お母さんの絵は昭和くさい」と言われたのが悔しくて、私だって萌えキャラを描けるんだと、証明するために木を擬人化して描いたのが「フォレスピカード（正式名フォレスト・スピリットカード）」になった。森に興味を持つきっかけのツールになってくれると嬉しい。



とにかく時間があれば書きたいと、バイタリティ溢れる平田美紗子さん

ウイスキーを飲みながら

夜は晩酌、特にウイスキーを飲みながら描いている。これがリラックスタイムにもなる。クラファンで国産ミズナラのウイスキー樽を入手し、そこで寝かせたウイスキーを飲むのが幸せ。日本酒やワインも好き。ジン、ビール、焼酎も大好きです(いわゆる呑兵衛)。

人生の目標

100年後に残る絵を一生に1枚でいいから作成したい。

新木場の皆さんにメッセージ

これまで主に川上側の情報を発信してきました。これからは、よりエンドユーザーに近い川下側の情報発信もしていきたいと思っています。一緒に木材業界を盛り上げていきましょう！



帰り際にいただいた封筒にサインが



平田美紗子先生の紹介映像

取材を通して、やさしい絵から想像していた方と違い、バイタリティ溢れる平田さんに驚きました。これからは、月報連載中の樹木漫画リン子の絵日記をしっかり観察していきたいと思います。最後に、お忙しい中、取材にご協力いただいた、平田美紗子先生、林野庁図書館の皆さん、そして取材に同行いただいた月報編集チームの皆さん、ご協力大変ありがとうございました。お疲れ様でした！



最後にワークショップ参加者との記念撮影